

大学生アルバイト先選好における労働条件の影響

—選択型コンジョイント分析による居住形態別比較—

日大生産工 (学部) ○平田 悠真 日大生産工 水上 祐治

1. まえがき

株式会社マイナビ「大学生のアルバイト調査(2024年)」によると、アルバイト就業中の大学生は71.1%であり、就業経験がある大学生を含めると89.5%に達している[1]。大学生にとってアルバイトは、経済的理由や社会経験の獲得といった側面だけでなく、スキルアップなどのキャリア形成にも関わる重要な活動となっている。一方で、労働条件や職場環境によっては早期離職につながるケースも多く、企業側の採用・育成コストの増大や人手不足の深刻化を招く可能性がある。したがって、学生がどのような要因を重視してアルバイト先を選択しているのかを明らかにすることが重要である。

本研究は、大学生のアルバイト先選好における労働条件の影響を定量的に分析し、特に一人暮らしと実家暮らしの学生間での選好の違いを比較・検証することで、居住形態が与える選好への影響を明らかにすることを目的とする。

2. 仮説

居住形態による生活環境の違いは、アルバイト選択における価値基準に大きな影響を与えると考えられる。特に、生活費や経済的自立の必要性、通勤時間や生活リズムなどの差異が、アルバイト選好における価値基準に影響を与えると考えられる。この観点から、以下の二つの仮説を設定する。

H1(賃金重視の差)：一人暮らしの大学生は、実家暮らしの大学生に比べて、アルバイト選択において「時給・収入・福利厚生」などの金銭的条件をより強く重視する。

H1の根拠として、近年の動向では奨学金収入の減少や物価上昇を背景に、学生のアルバイト収入への依存が強まっていることが指摘さ

れている。特に、橋本(2024)の「大学生アルバイトのハイパー日常化現象とその定着」では、アルバイトが学生生活の中で日常的かつ不可欠な収入源として位置づけられ、経済的理由による就業継続の傾向が顕著であることが示されている[2]。このことから、一人暮らしの学生は生活費の負担を補う目的で、賃金水準や経済的支援をより重視する傾向があると考えられる。

H2(非金銭的属性重視の差)：実家暮らしの大学生は、一人暮らしの大学生に比べて、仕事内容の興味・適合度や通勤距離(時間)など、非金銭的条件をより強く重視する。

H2の根拠として、平松(2022)の「居住形態と主観的困窮が大学生の悩みに及ぼす影響」では、居住形態が大学生の生活上の悩みや困窮感に影響を与え、生活環境が価値基準の形成に関与していることが示唆されている[3]。また、小室(2021)の「生活環境と生活意識の調査報告」においては、生活満足度においてアルバイトのやりがいや仕事内容への納得感が重要であることが報告されている[4]。以上のことから、実家暮らしの学生は経済的安定度が比較的高く、アルバイトにおいても金銭以外の要素(興味や通勤利便性など)を重視する傾向があると考えられる。

本研究では、これらの仮説を検証するために、大学生のアルバイト先選好における労働条件の影響を定量的に分析し、居住形態別の比較を行う。

3. 先行研究と研究課題

大学生のアルバイト選択に関する研究では、株式会社マイナビの「大学生のアルバイト調査(2024年)」が、時給・仕事内容・通勤時間などの労働条件がアルバイト先の選好で、特に重

The Effects of Working Conditions on Part-Time Job Preferences among University Students

— A Residence-Type Comparison Using Choice-Based Conjoint Analysis —

Yuma HIRATA, Yuji MIZUKAMI

視される要因であることを示している[1]。また、関口（2012）は、大学生のアルバイト選択とコミットメントおよび就職活動目標との関連を分析し、中核的自己評価が高い学生ほどスキル多様性や自律性の高い職務を選ぶ傾向があることを明らかにした[5]。さらに、職務特性がアルバイト先への愛着や就職活動における目標設定に影響を及ぼすことを示し、アルバイトがキャリア形成の一端を担う可能性を指摘している[5]。

一方、高本・古村（2018）は、アルバイト就労が大学生の精神的健康および就学態度に与える影響を検討し、長時間勤務や深夜労働といった過重就労が抑うつ感や疲労感を高め、学業への集中力を妨げる傾向があることを報告している[6]。

しかし、これらの研究はいずれも特定の要因に焦点を当てたものであり、複数の労働条件（時給、通勤時間、福利厚生など）を同時に考慮し、選好構造を定量的に推定する研究は、学生アルバイト分野では依然として少数である。

先行する少数の研究として、Maer Matei ら（2023）や Lee & Park（2021）は、コンジョイント分析を用いて複数の雇用条件を同時に評価する手法を採用しているが、対象は企業の採用判断や一般労働者を中心としており、大学生のアルバイトに焦点を当てたものは極めて限られたものである[7][8]。

本研究は、これらの先行研究の知見を踏まえ、大学生のアルバイト選好における複数条件の重要度を CBC（Choice-Based Conjoint）型分析を用いて定量的に明らかにし、さらに一人暮らしと実家暮らしの学生間における選好差を比較検証する。

4. 実験方法および測定方法

4.1. 研究概要

本研究では、複数の労働条件を同時に評価できるコンジョイント分析の手法を用いる。なかでも、実際の意思決定行動に近い形式で回答が得られる CBC（Choice-Based Conjoint）型のアンケートを採用する。

アンケート調査では、時給、通勤時間、交通費の有無、仕事内容、福利厚生、シフト確定の頻度の六つの属性を設定し、それぞれの水準を組み合わせた複数のアルバイト条件を提示する。回答者には課題ごとに「求人 A」「求人 B」「どちらも選ばない」の三つの選択肢から一つ

選択してもらい、その選択結果をもとに条件付きロジスティック回帰分析を行い、各属性の効用値および相対的重要度を推定する。

4.2. 分析対象および調査方法

本調査は、日本全国の大学生を対象にオンライン形式で実施する。調査期間は 2025 年 10 月であり、不完全回答を除外し、すべての質問に回答したサンプルのみを使用する。本調査の有効回答者数は 300 名を予定している。

回答者の募集及び回答の収集には、調査会社に依頼し、現役大学生に限定して実施する。

質問項目は、属性に関する質問（性別、年齢、居住形態など）、アルバイト条件の選択課題を全 9 題（各課題で二つのアルバイト条件から一つもしくは「どちらもえらない」を選択）で構成する。なお、データの集計および分析には Excel と統計ソフト R を用いる。

4.3. 分析に用いる属性および水準

本調査で使用した属性と水準を表 1 に示す。これらは、株式会社マイナビの「大学生のアルバイト調査（2024）」を参考に選定した[1]。

表 1 本調査の属性と水準

属性	水準
時給	1,100 円/1,250 円/1,400 円/1,550 円
通勤時間	10 分/20 分/40 分/60 分
シフト確定の頻度	月ごと/半月（2 週間）ごと/週ごと
仕事内容	接客中心/裏方中心（事務・厨房・清掃など）/混在
交通費	なし/一部支給（上限 500 円/日）/全額支給
福利厚生	なし/軽微（割引 5-10%、従食半額など）/手厚い（割引 30% 以上、食事無料、資格支援など）

4.4. 実験デザイン（ペアワイズ法）

本研究では、アンケートに提示するアルバイト条件の組み合わせを作成するにあたり、ペアワイズ法（ALL-Pairs 法）を用いた。ペアワイズ法は、すべての選択肢の中から任意の二つの要因の組み合わせをすべて網羅するように設計する手法である。この方法を用いることで、直行表を用いる場合に比べて、回答者の負担を抑えつつ、統計的に効率の良い実験設計を実現できる。

具体的には、時給、通勤時間、交通費の有無、仕事内容、福利厚生、シフト確定の頻度の六つの属性と各水準の組み合わせから、Microsoft

PICTツールを用いてペアワイズ条件を生成した。生成結果から現実的ではない組み合わせ（通勤時間10分で交通費全額支給など）を除外し、最終的に九つの課題を採用した。

これにより、回答者が直感的かつ比較的短時間で選択できる調査デザインとなった。作成したタスクはExcel形式に整理後、調査会社に依頼する。

4.5. 分析手法

アンケートで得られた選択データをもとに、条件付きロジスティック回帰分析を用いて各属性水準の効用値を推定する。

条件付きロジスティック回帰分析は、個人の選択行動を確率的にモデル化し、各選択肢の特徴が選好に与える影響を定量的に把握することができる手法である。

各選択肢 j に対する効用 U_{ij} は次のように表される。

$$U_{ij} = \beta_1 X_{1ij} + \beta_2 X_{2ij} + \cdots + \beta_k X_{kij} + \varepsilon_{ij} \quad (1)$$

ここで、 X_{kij} は各属性の水準を表す説明変数、 β_k はその影響の大きさを示す係数、 ε_{ij} は誤差項である。

回答者が特定の選択肢 j を選ぶ確率 P_{ij} は次式で表される。

$$P_{ij} = \frac{\exp(U_{ij})}{\sum_m \exp(U_{im})} \quad \cdots (2)$$

推定には統計ソフトRを使用し、データをロング形式(1行=1選択肢)に整形して、mlogitパッケージを用いて分析を行う。

推定された効用値から各属性の相対的重要性を算出し、大学生がアルバイトを選択する際にどの条件を重視しているかを定量的に評価する。さらに、一人暮らしと実家暮らしの学生に分けて同様のモデルを推定し、居住形態による選好構造の差異を検証する。

5. 考察

本研究は、大学生のアルバイト先選好における意思決定構造を明らかにし、居住形態の違いが選好要因に与える影響を明確化することを目的としている。

想定される結果としては、一人暮らしの学生は生活費の負担が大きいことから、時給や福利厚生などの金銭的要素をより重視する傾向があると考えられる。一方で、実家暮らしの学生は通勤時間や仕事内容、シフト確定の頻度などといった非金銭的要素を重視する傾向がみられると考えられる。これは、生活環境の違いが価値基準や行動選択に影響を与えるという先行研究の知見と整合的である[3]。

CBC型のアンケート調査と条件付きロジスティック回帰分析を用いることで、各属性の効用値や相対的重要性を定量的に推定できるため、大学生がアルバイト先を選ぶ際に、どの要因をどの程度重視しているかを数値として把握することが可能となる。時給の上昇や福利厚生の充実が、選択確率にどの程度の影響を及ぼすかを推定することができる。また、各属性の相対的重要性を算出することで、選好要因の順位化も可能となるため、居住形態別比較の際に選好の傾向差をより明確にできると考える。

一方で、調査設計やサンプル構成にはいくつかの課題も想定される。アンケート設問が実際の求人条件を完全に再現しているとは限らず、回答者の経済状況や選好時期によって一時的な偏りが生じる可能性があると考える。また、属性間の関連性や多重共線性に配慮し、モデルの安定性と解釈の妥当性を確保することが求められる。これらの点に留意しながら、条件付きロジスティック回帰分析を適用し、個々の属性が選好に与える影響の明確化と居住形態別の比較・検討を行う必要がある。

また、今回の研究で得られた知見は実務面でも有用であると考える。居住形態ごとの選好傾向を把握することで、企業は学生の生活環境やニーズに応じた求人を設計でき、募集効率や定着率の向上につながることが期待される。

6. まとめ

本研究は、大学生のアルバイト先選好における意思決定要因を明らかにし、居住形態(一人暮らし・実家暮らし)の違いによる選好傾向の差を定量的に検証することを目的として計画された。属性は、時給、通勤時間、交通費の有無、仕事内容、シフト確定の頻度、福利厚生の六つを設定し、CBC(Choice-Based Conjoint)型アンケートを通じて、各条件の効用値および相対的重要性を推定する設計を採用した。分析には、条件付きロジスティック回帰分析を用いて、居住形態ごとの選好構造を比較・検討する予定である。

想定される結果としては、一人暮らしの学生は金銭的要因を重視し、実家暮らしの学生は非金銭的要因を重視する傾向があると予想される。これにより、居住形態が意思決定に与える影響を定量的に説明できる可能性がある。

今後は、アンケート結果をもとにモデルの推定と仮説の検証を進め、必要に応じて性別・学年などの属性別分析を加えることで、より多面的な理解を図る。

最終的に、本研究が大学生のアルバイト選択行動の理解を深めるだけでなく、企業が学生の生活背景に応じた効果的な求人や定着戦略を設計するための基礎資料となることを期待する。

参考文献

- [1] 株式会社マイナビ, 「大学生のアルバイト調査」, マイナビキャリアリサーチ Lab, (2024) .
- [2] 橋本倫紀, 「大学生アルバイトのハイパー日常化現象とその定着」, 『現代社会学研究』第 36 卷, 第 2 号, (2024) , pp. 45–56.
- [3] 平松莉奈, 「居住形態と主観的・客観的困窮が大学生活の悩みに及ぼす影響」, 『大学教育研究紀要』第 23 卷, (2022) , pp. 31–40.
- [4] 小室奈緒, 「生活環境と生活意識の調査報告」, 『生活科学研究』第 12 卷, (2021) , pp. 17–28.
- [5] 関口倫紀, 「大学生のアルバイト選択とコミットメントおよび就職活動目標—中核的自己評価と職務特性の役割を中心に—」, 『大阪大学教育学年報』第 17 卷, (2012) , pp. 77–88.
- [6] 高本真寛, 古村健太郎, 「大学生におけるアルバイト就労と精神的健康および修学との関連」, 『心理学研究』第 89 卷、第 4 号, (2018) , pp. 352–361.
- [7] Maer Matei, M. M., Zamfir, A. M., & Mocanu, C. (2023). *Criteria Weights in Hiring Decisions—A Conjoint Approach. Social Sciences*.
- [8] Lee, C., & Park, S. (2021). *Changing Factors of Employee Satisfaction with Working Conditions: An Analysis of the Korean Working Conditions Survey. Sustainability*.